

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表	2020年3月31日	事業所名	ベストライフ株式会社 放課後等デイサービス さくら
----	------------	------	---------------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		宿題スペースと活動スペースを区切り、工夫している。	教室内のレイアウトを工夫し、より使いやすい教室にしていく。
	2	職員の配置数は適切である	○		法定基準以上の職員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		教室内はフラットであり、トイレ内に手すりを設置するなど、バリアフリー化されている。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎月全体会議を1回、クラス会議を2回実施し、全職員で支援方法や目標設定の統一、確認を実施している。	毎年6月にはグループ全体で研究発表会を行い、各事業所がそれぞれ、目標設定し取り組んできた業務改善の内容を発表し評価する機会を設けている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートは年に1回、保護者面談は年2回実施している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部・外部の研修に参加し、資質の向上に努めている。	毎年11月にはグループ全体で困難事例等の支援で色々な技法を使い取り組んだ研究を全事業所が発表し評価を行い、各事業所のスキルアップに役立っている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		支援計画作成前に毎回アセスメントを実施している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートを用いて実施している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎月の支援の重点ポイントを決め、月案・週案をスタッフ全体で意見を出し合い立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に応じた行事を取り入れたり、グループ全体での活動等を取り入れ、工夫している。 今後はクラブ活動の実施等も検討している。	グループ全体で、市の体育館を借りバドミントン等の運動交流を行ったり、けん玉やおセロ等の得意な児童は練習をしてグループ内で検定を行う等児童の特性に合わせて得意なところを伸ばしている様工夫している。音楽療法を定期的に行っており、合唱コンクールを開催する予定。外国人講師による英会話教室も計画している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		土日や休業日は時間をかけないできない活動を積極的に取り入れ、日頃できない経験を積めるよう工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○	現状では集団活動が多い。	集団活動を主にしているが、児童それぞれの成長や特性に合わせた個別活動を取り入れるよう検討している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援内容や担当割りをホワイトボードに掲示し、職員間で共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎終了後に残っている職員のみで気づいたことの振り返りを行うとともに、業務日報に記載し全職員に伝達している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用時には記録を記入し保護者に伝えるとともに、定期的に振り返りを行っている。また、欠席時や関係機関との情報交換時等にも記録を残している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを実施し、記録を残している。達成した項目については見直し、支援計画を変更している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドラインを基本としている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者に加え、必要に応じて保育士や児童指導員等が参加している		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○	送迎時当日の様子伺いや毎週末の時間割の確認を行っている。また、学校と放課後デイで統一した支援が行えるよう、連携をこまめにとっている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	事前に医師の意見書をいただき、処置の方法や気をつける点の確認や緊急時の連絡体制を関係機関で連携・確認し、利用を開始している。		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	利用開始前に情報提供のケース会議等を実施している。		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	これまで1名のみ移行した利用児童がいた。相談員を通じ、連携をとっている。		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	他施設とも連携をとり、支援に必要な情報交換や助言等を受けている。		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	地域の行事等には積極的に参加している。	今後機会があれば、児童館や児童クラブ等との交流も取り組んでいきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○	研修会等に参加している。		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	毎日の連絡帳や送迎時にて伝えるようにしている。また、年2回保護者と面談する場を設定し、児童の様子を伝える機会を作っている。		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	家庭でも同じような取り組みができるよう、統一した支援方法を検討したり、日々の様子でできるようになった点を伝え、喜びを共感できるように工夫している。		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	利用開始時に重要事項等を説明し、同意を得ている。また、変更が生じた場合にもその都度説明を行い、同意を得ている。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	悩みや困っていることを一緒に解決できるよう、専門的な知識を持った職員と連携し、対応している。また、状況によっては関係機関とも連携をとり、ともに解決できる方法を提案している。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	年2回の保護者会を開催し、交流が図れる場を作っている。		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情受付窓口担当者、苦情解決責任者、第三者委員会設置等を行い、苦情等があった場合には、真摯に対応し、迅速に解決できるよう努めている。		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	定期的にお便りを発行し、活動の様子等を伝えていく。また、行事の前には別途お便りにて予定を伝えている。	今後は1カ月に1回は、おたよりを発行する。	
	35	個人情報に十分注意している	○	写真の掲示・使用については、利用開始時に同意書を得て使用している。その他の情報も適切に管理している。		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	絵カードや写真を用い、わかりやすく伝えている。聴覚障がいのある児童には手話や指文字等も用いて伝えている。		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	夏祭り実施時には地域の方にご案内のチラシやポスター等を掲示している。	グループ全体で春祭り・秋祭りを開催、地域住民の方や高齢者の方、障がい者の方と触れ合うことで、児童の社会性を養うことにも役立っている。又、“ひばりの駅”の開催で地域住民の方と交流し、物品の販売等職業体験を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員研修等を実施し周知している。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回避難訓練を実施している。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止の研修を実施している。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		命にかかわるような危険な場面以外は身体拘束は行わないよう、保護者・児童並びに職員間で徹底している	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメント時に確認を行い、食事の提供時には注意し提供している。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットや事故報告は適宜記入し、検証と再発防止を実施している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。